

## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成27年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

|  |                              |                   |      |
|--|------------------------------|-------------------|------|
| 機関名  | 東京大学                         | 整理番号              | B01  |
| プログラム名称  | サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム |                   |      |
| プログラム責任者   | 武田 展雄                        | プログラム<br>コーディネーター | 味埜 俊 |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間評価結果を受けて、教員のプログラムへの積極的な参加と、学生のリーダーとしての意識改革がはかられ、計画の着実な実施に向けた体制作りがなされている。</li> <li>・ 博士課程進学者が少ないことや日本人学生が少ないことに対する対応に努力が見られる。</li> <li>・ 博士号の学位を取得した修了生が2名すでに出ており、サステナビリティ学の分野でグローバルに活躍するリーダーのさらなる養成が期待される。</li> </ul> <p>○学位プログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通に議論する場である GPSS-GLI セミナーが毎週行われており、教員を交えた学生の発表と議論により教育効果をあげている。</li> <li>・ UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）をパートナーとして演習やインターンシップの場を広げており、教育効果が期待できる。</li> <li>・ 実社会経験者が博士課程から入学し研究成果をあげている反面、特に日本人学生の修士課程から博士課程への進学者が少なく、修士・博士課程一貫のコースとしてのプログラムの制度設計の真価が問われる段階にある。</li> </ul> <p>○組織・マネジメント体制等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学全体の中長期構想の中で、支援期間終了後のプログラム運営について基本的な方針が明示され、総長を中心としたマネジメント体制作りに向かっている。</li> <li>・ 英語のみによるカリキュラムと事務システムが定着している。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修士課程修了者のフォローアップ調査と同修了者への情報提供を行い、修士課程修了者が社会人経験後に博士課程へ復帰する際の敷居を下げる努力がなされている。</li> <li>・ インターンシップの受け入れ先を増やす努力が続けられているが、学生が期待するような長期間で実務を経験できる機会を提供する必要がある。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本人学生の修士課程から博士課程への進学者が少ないことや、東京大学からの入学者が少ないことがこれまで指摘されてきた。学外も含めた日本人学生の確保について引き続き努力が求められる。</li> <li>・ 博士課程から入学する社会人経験者の活躍を修士課程の学生のポテンシャル向上に結び付ける必要がある。</li> <li>・ 本プログラムに所属する博士課程の学生の研究参加を含めてサステナビリティ学の確立を目指す必要がある。</li> </ul> |                              |                   |      |